

牛飼育頭数 最多を更新 乳用24.5万頭、肉用23万頭
十勝農協連21年畜産統計

2022年4月30日(土)

十勝農協連(若園則明会長)は、2021年の畜産統計をまとめた。乳牛、肉用牛(ホルスタイン雄含む)ともに飼育頭数で過去最多を更新した。酪農は生乳出荷戸数の減少は続いたが、規模拡大や1頭当たりの乳量の増加で、生乳生産量は132万5,000トンと4%増えた。肉用牛は飼育戸数は微増で、飼育頭数は黒毛和種やその他(交雑種など)を中心に伸びた。

【乳用牛】

乳牛の飼育戸数は2.5%(31戸)減の1,205戸(うち専業869戸)。経営体別では、個人経営が44戸減の944戸、法人経営が13戸増えて261戸となった。個人経営では101~200頭規模が296戸(31%)で最も多い。法人経営は、400頭以下が163戸(62%)で最多だが、1,001頭以上も29戸(11%)あった。実際に生乳を出荷している農家戸数は、2.4%(26戸)減の1,067戸で減少傾向が続いた。

乳牛の総頭数は0.8%(2,059頭)増の24万5,874頭で、このうち経産牛は2.1%(2,864頭)増の13万7,194頭だった。1戸当たりの平均飼育頭数は3.4%(6.7頭)増の204頭で、初めて200頭を超えた。

1~12月の生乳生産量は前年と同じ4%の増加。経産牛1頭当たりの乳量は9,661キロとなり、前年を1.8%上回った。生乳出荷農家1戸当たりの平均生産量は1,242.1トンと6.5%の伸び。農家戸数が減る中で、国な

どの増産事業の後押しを受けた規模拡大と、1頭当たりの乳量増加によって前年を上回った。農家戸数を除く多くの指標で過去最多の数値になっている。

【肉用牛】

全体の飼育戸数は2戸増の575戸で、飼育頭数は23万197頭で1.3%(2,865頭)増えた。主な種別では、黒毛和種の飼育戸数は4戸減の461戸、飼育頭数は5万7,122頭で4.3%(2,348頭)増加した。繁殖用雌牛が増えている。

ホルスタイン種(肉用)の飼育戸数は、1戸減の79戸。飼育頭数も7.2%(6,223頭)減の7万9,688頭となった。一方で、その他の飼育戸数は前年と同じ128戸で、頭数は7.9%(6,773頭)増の9万2,617頭。

◆乳用、販売価格が急落

【個体販売】

乳用牛の市場価格では、年平均が育成牛で39.3万円(前年比11.5%減)、初妊牛で70.1万円(8.1%減)、経産牛で35.5万円(20.8%減)となった。いずれも前年より低くなった。コロナ禍を背景にした生産抑制の影響で、販売価格は急激に下落した。

肉用牛の肥育素(もと)牛は、黒毛和種の雌で70.2万円(14.7%増)、去勢で82.7万円(13.9%増)と、堅調に推移して前年を上回った。一方で乳用交雑種は雌が33.4万円(6.6%減)、去勢41.2万円(6.7%減)で低値となった。

【馬・豚】

馬は飼育戸数が7戸増えて150戸になったが、このうち輓系(ばんけい)馬は3戸減の87戸になった。輓系馬の飼育頭数は大型農場が加わり、19.6%(165頭)増の1,005頭になった。豚の飼育戸数は前年と同じ27戸。繁殖豚は6,593頭で10.9%増。肥育子豚は6万3,429頭で10.6%増えた。

【飼料畑】

一般草地面積は6万4,332ヘクタールで2%(1,264ヘクタール)拡大した。飼料用トウモロコシ面積は2万5,234ヘクタールで1.2%(293ヘクタール)増えた。

